

# エジプトの英語教科書に見る災害と 防災の表現

森 康成

## はじめに

2011年はアラブの春が話題になった。チュニジアで2011年1、2月に民主化が起り、エジプトへも波及していった。エジプトに関しては、2012年の前半は大統領の選挙でもちきりであった。The Times (January 22, 2012)にはムバラク大統領は‘a life that was turned upside down by the Arab Spring’<sup>1</sup>と記されていた。英語では「アラブの春」は‘Arab Spring’である。季節でも、また、抽象的な意味でも、春の季節の到来でこのような命名になったのだろう。エジプトというと暑いことしか浮かばない人もいないのではないだろうか。エジプトには春があるのだろうか。筆者はエジプトではないが、その近辺のリビア、チュニジアやイスラエルで冬を過ごしたことがある。車の中や野外で野宿したことがあるが、服を着込んで寝袋にくるまっていても、寒くてどうしようもなかった。雨が降るときもあり、春が待ち遠しいという気がした。

ここでは、2011年3月11日の東日本大震災で災害や防災に対する関心が高まっているところでもあり、エジプトの英語科の教科書を調査し、エジプトの人々の災害の認識はどうかという点と、災害の表現をみてみたい。「津波」という表現は取り上げられているのであろうか。

## 1. エジプトの災害概観

ここで資料とするのは、エジプトの英語科の教科書4冊で、総ページ数は1477ページである。内訳は、文法の教科書2冊、ショートストーリーと文法の組み合わせ2冊である。これらは、特に選んだものではなく、エジプトの英語科の教科書ということで入手できたものである。日本の英語科の教科書に比べ、1冊のページ数が多いのが特徴である(参考文献リスト参照)。調査した4冊のうち、1冊は防災語彙や表現が見られなかった。Primary grade 5とある

教科書で、英語の内容はアルファベットから載っているため日本の中学1年から2年生のレベルだと思われる。英語学習の初心者用のため防災関連の語句がないものと推察される。以前筆者が調査したフィリピンの教科書と比較すると、フィリピンでは初心者用でも簡単な災害語彙は見られるため、エジプトでは災害の認識がフィリピンほど強くないのかもしれない。他の3冊は災害や防災表現が見られた。ここに紹介するのは、その内容である。以下、教科書を便宜的にHello!6 First TermはH61, Hello!6 Second TermはH62, Hello!8はH8と略す。

まず、統計的なデータで、概観してみたい。筆者は、過去に本誌で、台湾(No. 48)、ケニア(No. 51)、ミャンマー(No. 59)の英語科の教科書を取り上げて災害や防災表現について紹介したことがある。自然災害語彙(typhoon, floodなど)は比較的わかりやすく、統計化しやすい。1ページに災害語彙、例えばstormが1回出てきても1件、3回出てきても1件と数えることにする。災害語彙が出てくるということはある程度、そのページで災害が取り上げられて話題になっているという仮定である。このように調査して得た資料が表1である。

表1からどのような特徴が考えられるだろうか。

表1 自然災害語彙	件数
famine, die of starvation, starvation, drought	21
rain heavily, heavy rain, flood	17
storm, gale, hurricane	14
thunderstorm, lightning	9
earthquake	7
erupt, explosion	6
disaster	1
iceberg	1
landslide	1
合計	77

drought は干ばつという自然災害であり, famine, starvation はそれによって引き起こされる災害である。これをまとめて集計したが, 件数が一番多くみられた。次に多いのは, 大雨や洪水である。3番目に多いのが, 暴風やハリケーンである。storm に砂嵐が含まれているのが, 日本やミャンマーなど他の国と異なる点である。次節で具体的に紹介する。次の雷雨も大雨となることがあり, それを合わせると, 23件となり, 一番多い災害と集計することもできる。これらが3大災害で, 地震や, 火山災害がそれに続いている。

## 2. 特徴的な災害について

### (1) 干ばつ・飢饉関連表現

関連語彙は drought, famine, die of starvation, starvation である。H8 の p. 216 には語彙の学習で drought が挙げられているが, その定義が英英辞典のような形で ‘a long period of dry weather when there is not enough rain’ と記されている。‘famine’ は ‘lack of food in a large area that can cause the death of many people’ で ‘starvation’ は ‘Starvation: famine, when people die because they have nothing to eat’ (H61, p. 169) と記されている。Hello61 の p. 211 には ‘A lot of Africans starved to death because of hunger. (starvation)’ という名詞を使った書き換えの練習問題があり, 語彙レベルとしては, ‘starvation’ は前記2語より易しいものととらえられているようである。‘famine’ と ‘drought’ の関係は次のような文に見ることができる。‘The long drought was followed by famine which caused the death of many people.’ (H8, p. 216) 語彙の学習の後, 練習問題では, ‘Somalia suffered from a ... some years ago. a) rainfall b) drought c) cataract d) flooding’ (H8, p. 221) が挙げられている。ソマリアは日本の新聞でアフリカでの飢饉や飢餓が報道される時によく見られる東アフリカの国名である。‘cataract’ は「豪雨」である。筆者は日本の高校の教科書を多く調査しているが, 見たことのない語彙である。

日本でも, 東北地方など江戸時代に飢饉に見舞われたことが多くの文献に見られるが, ‘The long drought was followed by famine which caused

the death of many people’ (H8, p. 216) は今回東北地方を襲った津波とともに, 災害の表現や自文化を語る表現として使用できそうである。

### (2) 暴風表現

この項目の語彙は, ‘storm’ である。H8 の p. 353 には storm の定義が ‘bad weather with heavy rain and strong winds’ と書かれており, 大雨と強い風という認識であることがわかる。‘storm’ があると, 船は ‘The ship was helpless against the power of the storm.’ (H8, p. 11) となり, 家は ‘A tree crashed into a woman’s bedroom during a storm.’ (H61, p. 118) となる。それによる被害の後には, ‘The men who came to cut the tree down ... a) had an easy job b) had to work hard c) worked during a storm d) argued a lot (H61 p. 119) や ‘The roof has to be repaired as it was ... by the storm. a) mended b) improved c) damaged d) supported’ (H8, p. 218) などのように後始末に追われる様子を示す練習問題が挙げられている。ここにはまとめて書いたが, これらの文はバラバラに載せられており, H61 と H8 を学習すれば storm について一連の表現が学習できることになる。

storm は, 単語だけ見ていると, 雨を伴った暴風を想像するが, エジプトは異なるものがある。‘When the storm blew, we were showered with sand and dust.’ (H8, p. 185) といういわゆる砂嵐の表現が出てくることである。車で走っているとき突然砂嵐があると前が見えなくなる, というのが北アフリカでの筆者の体験である。短時間でも長時間でも問題である。エジプト人と日本人が話すと, 一方は砂嵐を想像し, 一方は台風を想像しそうである。自然は文化ではないが, 言葉になると異文化理解やミスコミュニケーションに関わってくる。

### (3) 大雨, 洪水関連表現

この項目の語彙は rain heavily, heavy rain, flood である。‘It is raining heavily and everyone else in the street has an umbrella.’ (H61, p. 61) という表現がある。‘Write what you would say in each of the following situation’ という指示の問題に単独で出ている文のためどの国のこと

なのか不明である。‘The wind blew black clouds and it began to rain heavily.’ (H61, p.109) は Tom という子供の出てくる話の中なので、イギリスの可能性が高い（この本はイギリスのことがよく書かれている）。‘flood’については、‘The weather forecast says there’ll be thunderstorms and flooding this week.’ (H8, p.91) という表現がある。雷雨の表現も ‘The sound of thunder often follows the lightning although they ... together. a) are happening b) are happened c) have happened d) happen’ (H8, p.26) と雷の音と稲妻の関係が示されており、‘A ... of lightning appeared, then rain began to fall heavily. a) shadow b) flash c) cover d) screen (H8, p.108) と雨が降る表現もある。

ピラミッド周辺の観光写真やテレビの世界遺産の放映などを見ると、砂漠が広がっており、雨は信じがたい。本当に雨が降るのだろうか。元カイロ日本人学校 PTA 会長の堀琢磨は「冬には数回雨が降る。雨の前に泥とスモッグが混じった匂いがして、大粒の雨が降り、干した白いタオルに砂粒がつく」（『地理』2010, 55-5, p.97) と述べている。

先の雷雨の表現は、筆者は最初「これは他の国のものだろう」と思って読んだ。しかし、1994年「11月2日未明から数時間、エジプト全土が雷を伴う豪雨に見舞われた。（中略）、3日夕までに258人の死亡が確認された。この他に200人以上が泥濘にまみれた焼跡に埋まっているとされ、死者数は500人に達する見方が強い。（後略）」（『世界災害史事典1945-2009』p.261）この事典のデータを見ると、このような洪水はめったに起きないようだが、2010年には死者が出るような洪水が2件発生している。‘Heavy rains and flash floods have left seven people dead in Egypt and Israel. (BBC 18, January 2010)’ ‘At least fifteen people mostly schoolgirls, have been killed after a bus was swept off the road by flood waters south of the Egyptian capital, Cairo.’ (PRESSTV Dec 31, 2010).

筆者は、日本の過去の英語科の教科書で災害の記述を研究しているが、関東大震災の後で災害に関する記述量が増えていることを確認している（森康成2012）。エジプトにとって大災害である1994年の事

例をふまえ、「エジプトでは、雨の降ることは少ないが、危険なこともあり、雨について知識として知っていることは大切である。」という生徒へのメッセージのように思える。

#### (4) その他

‘desert’は集計の表には取り上げていない。件数としては約30件あったが、直接災害に関わる表現が見られなかったからである。砂漠化 (desertification) なら取り上げてもよさそうだが、その語彙は見られなかった。エジプトに関しては、日本の英語科の教科書によく出てくる語であるため (Longman 1887, 森康成 1995, 2007), エジプトの英語科の教科書では desert に関してどのような表現がされているのか、数例取り上げてみる。地理的な概観で、‘The most extensive deserts in the world are Sahara and Libyan deserts which stretch across the north of the African continent from the Atlantic Ocean to the Red Sea.’ (H61, p.37) が見られる。その砂漠の特性は、‘The Western Deserts of Egypt is also one of the driest places on Earth, where it scarcely rains.’ (H61, p.37) のように書かれている。砂漠の灌漑に取り組んでいる様子が、‘In the southern part in Toshka, a new canal is being dug to take water from Lake Nasser, behind the High Dam and allow it to flow into the desert.’ (H61, p.38) に示されている。砂漠化については、‘Many ... disappeared because man wanted to get wood. a) oases b) islands c) forests d) deserts’ (H8, p.221) のような問題にも見られる。これに関しても、堀琢磨は Toshka のことに言及しており（『地理』2008, 53-9, pp.68-69）、ここで取り上げた教材は事実を述べていることがわかる。

### 3. 他国の教科書との比較

津波に関しては、調査したエジプトの教科書では見られなかった。筆者は、世界の各大陸から15カ国の英語科の教科書を調査したことがある（森康成2006他）が、津波という用語が見られたのは、日本、台湾、インドネシア、ミャンマーで、ブラジルの教科書では、写真が見られた。大きく取り上げられていたのはインドネシアのものだけであった。災害に

については、どの国も自国に関係のある災害を取り上げるというのが一般的傾向で、そういう点からすると、身近な過去に大きな津浪被害を経験していない国では記述されていないということになり、エジプトでは過去に津波の被害がないということが推測される。

#### 4. あとがき

筆者は昔、夏の終わりにエジプトへ行ったことがあるが、その時は歴史で習ったことがインプットされており遺跡見学しか考えなかった。暑くて道端の瓶から水をすくって飲んだことを思い出す。エジプトに雨が降るなど考えもしなかった。このようにエジプトの教科書を見ると、雨で洪水が起きることもあるということがわかった。拙稿が、異文化理解や異文化コミュニケーションの一つの入り口となったなら幸いである。

付記 社会的な関心のある方に：最初にアラブの春を挙げたが、ここで調査した教科書は2005年のため、ムバラク大統領の活動を肯定的に記した文が所々見られた。(例) President Mubarak ... great contributions to world peace. a) showed b) demonstrated c) did d) made (H8, p.332)

#### 調査した教科書

Selah el Telmeez. (2005) *Hello! Book 2*. For the Fifth Year Primary (p.359)

Albert Saad. (2005) *The Gem Series Hello!6 Short Stories First Term*. Nahdet Misr. (p.316)

Albert Saad. (2005) *The Gem Series Hello!6 Short Stories Second Term*. Nahdet Misr. (p.289)

Albert Saad. (2005) *The Gem Series Hello!8*. Nahdet Misr. (p.513)

#### 参考文献

BBC News-Flash floods in Egypt and Israel kill seven <http://news.bbc.co.uk/2/hi/8466546.stm> (2012年12月4日閲覧)

堀琢磨 (2008) 「エジプトは今日も快晴」『地理』53-9, pp.68-69.

堀琢磨 (2010) 「エジプトは今日も快晴」『地理』55-5, pp.94-97.

Longman. (1887) *Longman's New Readers THE THIRD READER FOR STANDARD III* (三省堂) pp.46-47.

日外アソシエーツ編集部 (2009) 『世界災害史事典1945-2009』日外アソシエーツ

森康成 (1995) 「英語教科書に見るアフリカ (上)」『アフリカ』35-3, pp.26-29.

森康成 (2007) 「世界の『英語科』教科書に見る災害や防災」『英語部会のあゆみ』第17集 兵庫県高等学校教育研究会英語部会 pp.7-12.

森康成 (2007) 「明治から昭和前期の英語科教科書に見るアフリカ記述」『日本アフリカ学会第44回学術大会研究発表要旨集』日本アフリカ学会第44回学術大会実行委員会 p.55.

森康成 (2012) 「災害や防災は日本の過去の英語科の教科書の中でどのように記述されてきたのか——明治から平成にかけて——」『はくほく』第33号 兵庫県高等学校教育研究会英語部会 pp.79-98.

PressTV-Schoogirls killed in Egypt flood <http://edition.presstv.ir/detail/158063.html> (2012年12月4日閲覧)

*The Times* (January 22, 2012) edition 5, p.7. 東京外国語大学のサイト

[http://www.el.tufts.ac.jp/prmeis/html/pc/News20100129\\_014150.html](http://www.el.tufts.ac.jp/prmeis/html/pc/News20100129_014150.html) (2012年11月26日閲覧)

(近大姫路大学非常勤講師)